

2021年5月11日

地すべり防止区域点検（南陽市荻地区）



置賜地域には、地すべり等防止法に基づき「地すべり防止区域」に指定されている区域が4ヵ所あります。

融雪や降雨、地震などによる地すべりの拡大や被害を未然に防ぐためには、点検が欠かせません。山形県では、地すべり防止区域ごとに区域の特徴や地域の実情に詳しい方を巡視員として委嘱し、毎月点検をしています。

この日は水抜きボーリングや水路、集水井などを巡視員の方と一緒に点検し、異常がないことを確認しました。

○水抜きボーリング・・・斜面にパイプを通し地下水位の上昇を抑えるもの

○集水井（しゅうすいせい）・・・最も地下水が集中している付近に井戸を設置し地下水を集め、自然排水させるもの

【置賜農村計画課：田中】

2021年6月10日

草刈り隊の活動記録（白鷹町中山地区）



今年度、「山形県がんばる中山間農業農村省力化パイロット事業」を活用して、白鷹町中山地区、小山沢地区で草刈り隊が結成されました。

この日は中山地区で「やまがたサンデー5」の取材が行われ、ラジコン草刈機を使用した草刈りの実演や、草刈り隊立ち上げのきっかけと今後についてのトークが撮影されていました。

法面の急傾斜で草刈りなどの管理が大変な中山間地において、草刈り隊の活動がもっと広がるよう応援していきます。

【置賜農村計画課：安部】

2021年6月28日

生き物調査（川西町大塚地区）



置賜総合支庁農村計画課では、「飛び出せ高校生技能実習地域協働事業」（通称：飛び高）として高校生が実際の仕事を体験する場を提供したり、農業農村整備に対する理解を高めたりするための活動を、県立置賜農業高等学校と協働して行っています。

ほ場整備を行う際には、生態系や環境に配慮して工事を行う必要があります。この日は置賜農業高の13名が参加し、植物類・昆虫類・魚類の3つの班に分かれて希少種の有無やどんな生き物が棲んでいるかを調査しました。

【置賜農村計画課：山田夏】

2021年10月22日

耕作放棄地再生研修（白鷹町萩野地区）



白鷹町萩野地区は、以前は町の三大産業（葉タバコ・ホップ・養蚕）で栄えていた地域ですが、中山間地という営農条件の厳しさなどから荒れ地が増え始めていました。

そこで、平成23年度から平成30年度にかけて耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業により約30haのほ場を整備し、その中の20aの試験ほ場でブドウの栽培を始めました。現在、ブドウの栽培面積は3.4haまで拡大し、収穫したブドウはサントリーの工場へ出荷しています。

この日は16名の農業土木職員が研修に参加し、コツを教わりながらブドウの収穫を体験しました。

【置賜農村計画課：志田】

2021年7月～12月

東陽の里づくりワークショップ（白鷹町東根地区）



白鷹町東根地区では、コミュニティセンターを中心に老若男女が集まり「東陽の里づくり計画」策定に向けた話し合いを行っています。住民自らが地域の問題点や将来像、課題に向けて取るべき行動を明確にしていくため、ワークショップの手法を用いて話し合いを進めています。

写真は、12月に部会ごとに分かれて行った提案を実践に移すための、より具体的な話し合いをしている様子です。

【置賜農村計画課：山田夏】

2021年12月22日

農村環境保全指導員の活動（川西町犬川地区）



山形県では農地の保全や農村地域の活性化の推進のため、各市町村に「農村環境保全指導員」を委嘱しています。川西町の農村環境保全指導員として活動している鷺尾武次さんはわら細工の名人で、犬川わら細工会の一員としてしめ縄や門松の制作をしています。わらを編うしなやかな手さばきは、さすがの職人技です。写真は、犬川わら細工会のみなさんが制作している様子と、完成した門松が整然と並べられている様子です。

鷺尾さんは、農村の伝統文化を学ぶ場として、地域の小学校でしめ縄作りの体験を行っています。

【置賜農村計画課：山田夏】

2021年9月～2022年1月

集落戦略作成ワークショップ（置賜各市町）



国では傾斜が急で農業の生産条件が不利な地域で農業生産活動を継続していくため、「中山間地域等直接支払制度」により中山間地域を支援しています。

少子高齢化や担い手不足、近年では鳥獣被害に悩まされている中山間地域で、集落の農地や将来像について指針を立てるべく、各集落協定で集落戦略を作成するワークショップを行っています。

今年度、置賜地域では66協定中8協定でワークショップを行い、参加者から地域をよりよくするための提案がたくさん出されました。

【置賜農村計画課：安部】